

1【スギ等の育林技術】

項目	質問内容	コメント
【植栽】	Q1 ヒノキを植えたいが当地域で育つか	・生育は可能であるが、当地域のような寒冷地では、胴枯れ、漏脂病にかかりやすいので、すすめられない 植える場合は小面積（1～2反歩）で、山の中腹より上に植える
	Q2 埋め立てした土地に植栽するには どうしたらよいか	・このような箇所は、放牧跡地や水田跡地と同じで、腐葉層等の表土がないため、土壌改良することが大切である 牧草等を撒いて数年放置した後に、植栽した方がよい
【下刈り】	Q3 下刈りの適期は	・1回刈りの場合は、6月中旬から7月下旬 2回刈りの場合は、1回目6月上・下旬、2回目が8月上・中旬 9月以降は効果低い 乾燥続きの時は避けるべき 秋冷えのときは逆効果
	Q4 枝打ちした後5年ぐらいなり、下草、灌木類がでてきた（25年生） 下刈りした方がよいか	・下刈りは、藪になったところだけでよいのではないかと 全刈りすれば管理するには楽であるが、乾燥を防ぐには刈 払いしない方が樹木のためになる ・カヤ、ヨシ、ススキ、ツル類は、新芽が出てきたときに、大きくなる前に何回か刈り払うことにより、絶やすこと ができる
	Q5 異常高温の年（H22年度）の下刈りはどうしたらよいか	・こうした年は、下刈りすることにより、逆に乾燥し、枯死する場合もある このため、中止あるいは、雑草の厚い 箇所を坪刈りにし、来年、状況を見て、例年より早めに実施したらどうか
	Q6 休耕地にスギを植えたが雑草が繁茂した どうしたらよいか	・ヨモギに埋まっている このままでは、スギが枯れてしまう まず坪刈りをし、来年7月に再度下刈りする
【間伐】	Q7 間伐の方法（指導して欲しい）	・切り捨て間伐でも今後の作業等を考慮し、玉切りして小さく集積する ・選木は、空間を均等になるようにすること（間隔が正三角形になるよう心がける） ・選木は林木の形質に重点を置いて、樹冠の優劣、形質の良否を基準に、間伐後の空間が均等になるように心がける 欠点があるが大きな穴があくような場合は、次回まで伸ばす ・保育間伐から収入間伐への移行期が難しい 自分で実行することが大事
	Q8 間伐の時期は	・切り捨て間伐は、特に時期を選ばないが、収入間伐はカミキリ、ゾウムシ等の被害があるので入梅時は避ける 梅雨期に伐採する場合は、薬剤を散布する 最盛期には2回散布するのが有効である 予防用にはスミチオン、駆 除用にはバイジットを主成分とするものを使用
	Q9 間伐は何年ぐらい間隔をおくとよいか	・普通の地位のところであれば5～7年置き 収量比数0.7（中庸）を目安 ・何年生になればやるのではなく 林の混み具合（うっぺい度合い）によって実施 ・何年生で主伐するかによって、間伐時期が決まる 長伐期施業の場合は、多間伐、多収入施業となる
	Q10 根曲りを防ぐには	・鳥海地区等は完全に防ぐことはむずかしい 植え付け時から雪起し、を励行し裾枝払いをすることが大切
【現地指導】	Q11 これまで放置状態の山だが どういう手入れが必要 か（スギは45年生、ザツは不詳）	・スギについては劣勢木は林縁を除いて伐採する ザツは有用樹の育天をやったらどうか 上木・下木をバランスよ く仕立てるように
	Q12 山林の手入れについて現地を見て教えてほしい	・これまでの保育の経緯を聞く 図面等と照合し、林分ごとに施業方法を説明 補助事業でやる場合は支所等とよく 打合せをすること 補助の対象になる部分とならない部分をはっきりさせること
	Q13 10年～15年の山は今何をすればよいか	・通常の成長であれば、枝打ちと除伐が必要な林齢である 1回の枝打ちの高さは1～1.5m程度が目安

1【スギ等の育林技術】

項 目	質 問 内 容	コ メ ン ト
【枝打ち】	Q14 枝打ちの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・成長具合を見ながら20年生ぐらいまでは、樹高の半分を目安 それ以上は、間伐と組み合わせて実施 ・少しずつ上げる（20年生まで、2～3回） 一気に上げると雪害が心配 ・枝打ち高以上で、間隔が狭く混み合っているときは、太い枝を抜き切りする 打つときは、木を一周しながら打つ ・裾枝払いをしたときは、必ず残枝の枝打ちを実施すること 怠るとガニクサレ材になる恐れ
	Q15 枝打ちの時期は	<ul style="list-style-type: none"> ・枝打ちの季節は、樹液の流動の休止期間 10月後半から3月末ころが適期 ただし、厳寒期（2月中旬まで）は傷口が凍り、材に悪影響を及ぼすことがある（-10℃以下） 生育期は樹皮が剥げやすいので極力避ける
	Q16 1回当たりの枝打ちの高さは、どの程度がよいか	<ul style="list-style-type: none"> ・枝打ちの場合の基本的な考え方は、芯持ちの四面無節生産と芯去りの2面無節生産を考えることが大事 本県のような多雪地帯で、根元曲り等がある場合は、優良大径材を目指し、2面無節生産を基本とした方が無難と考える ・10.5cm角の四面無節生産の場合の枝打ちする幹直径は4～6cmで、12cm角生産の場合は、幹直径7cmであり、いずれの場合も、1回に打つ高さは、1.5mが限度となる（これは通常2cm程度の曲りを含んだ場合）これで一丁分を無節にするには、1mづつ4回程度繰り返すことになる 1回目の枝打ちした2年後に次の枝打ちすべき径となる 1回目の開始林齢の目安は5～8年生 ・大径材の2面無節生産では、1丁分を目標とするのが妥当で、将来、10.5cm角4本取る場合は、曲りを含めても、枝打ち幹直径が16cm程度で実施する この場合は、1回の枝打ち高は、3～4m可能であるが、巻き込み後の年輪の乱れを防ぐため、2mづつ2回に分けて実施するのが望ましい 大径材生産の場合は、主伐時の成立本数は600本/ha程度であるため、間伐時から枝打ち目標木を定めて施業を実施することが効率的である ・端的に言うと、20年生ぐらいで、樹高の半分ぐらいが目安
【葉枯らし】	Q17 葉枯らしとは	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の紅葉3分のころ伐採し、玉切りせず枝葉をつけたまま乾燥すること 原木内の水分を早く抜く効果
【肥培管理】	Q18 近年肥培管理が少なくなってきたのはなぜか	<ul style="list-style-type: none"> ・施肥の目的は、生長を促すことにあるが、特に造林地の初期生長を促し、下刈り等の経費を削減することにある 反面、年輪幅が広くなり、良質材生産という面からすると課題がある こうした点が敬遠されている要因である
	Q19 肥培管理の方法は	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の林分では尾根筋だけ実施 痩せ地の場合は、上部に多め、下部に少なめに実施 いずれもばらまき 一度にやらず3回に分けて、3年連続して実施 ・時期は雪解けが始まったら全量の半分を、残りの半分のさらに半分を梅雨どきに施し、林木の様子を見ながら残りを散布 組合の購買から、林齢に合った肥料を使用 肥料の種類：マル森11号（15kg）が一般的 施肥量：造林地1本100g程度 1反歩 1袋半程度
【複層林】	Q20 複層林の留意点は	<ul style="list-style-type: none"> ・上層木が混んできているので、択伐が必要 小集団になるように伐採 下層木はいずれ切られるので折損はあまり気にしない（現地指導）
【作業路】	Q21 路面、路肩の保護について	<ul style="list-style-type: none"> ・路面保護は排水が第一 山側には、粗堀でよいかから側溝をつける 勾配はできるだけ押さえる 切り土を少なくする工夫 沢側の編柵工、横断工の設置など
	Q22 作業路の作設について	<ul style="list-style-type: none"> ・沢筋でなく、できるだけ中腹以上に 雨降り時は使用を控える 急勾配の所は排水を徹底
【丸太】	Q23 幹曲りは年数が経つとなおるものか	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな曲りは直らないが、矢高が0.5～1.0%ぐらいであれば、長くおくと直るといわれている（矢高2cm÷長さ4.0m=0.5%）
	Q24 丸太素材の長さは	<ul style="list-style-type: none"> ・通常は、3.65mの流通が主であるが、必ず5cm程度伸びをつけて3.70mとする 合板用は、4.0mか2.0m トビクサレ等がある場合は、4.0mか2.0mとする ・広葉樹用材は、2.2mか4.0mで採材する

2【広葉樹の育林技術】

項 目	質 問 内 容	コ メ ン ト
【ケヤキ】	Q25 ケヤキ等の広葉樹の山取苗を植えてもものになるか	・ ていねいに掘取って、根を断根してから畑で1～3年養成してから山に植える
	Q26 ケヤキの造林地が雪で倒れているが	・ 倒れたものは雪起しをし、折れたものは、丈夫な芽の上のところを整枝して伸ばしていく 広葉樹はスギのように直立しにくい性質 他の雑木と競争させて伸ばしていく
	Q27 ケヤキのウサギの食害	・ 先端等軽微な被害は、整枝や剪定で回復可 根が丈夫な時は、修正可 被害木は食害点の下でカットして仕立てる
	Q28 ケヤキの造林地の育て方は	・ 植栽当初は、あまりいじめないで、そのままのばしておく 幹が細いうちにあまり枝打ち等を行うと太れなくなる 2～3年は、整枝をしないで、雪起しをていねいにやること
	Q29 同じくエンジュやケヤキの雪害	・ 雪害用支柱は、しっかり動かないように 冬期間は、紐をはずし春にまた固定する
【エンジュ】	Q30 エンジュ、ケヤキの整枝の方法	・ 若齢で強度に整枝すると成長がとまるので毎年1段づつなど気長に
	Q31 エンジュを植えて5年 管理は	・ 根本回りの草刈り ウサギやネズミ防除、整枝（落葉後）、雪起こし等
	Q32 イヌエンジュの植栽地 どのように仕立てたらよいか (現地診断の結果:植えた後は、下刈りだけ実施 活着率は良いが、生育はよくない)	・ 今後の作業は、①被圧木及び混んでいるところを伐採すること ②整枝を行うこと(切り口は刃の細かいものでできるだけ滑らかに) ③大きな穴になるような箇所は、被圧木でも2～3年後に切るとよい
	Q33 広葉樹を植栽したいが	・ ケヤキ、ミズナラ、コナラ、トチノキ、ホオノキ、ブナノキ、カツラなどの有用広葉樹が適 ①一斉林大面積造林は避ける ②地こしらえは、スギのように地際から刈払わないこと 植えるところだけ ③野兎防除や雪起しの励行
	Q34 植え方は(5月中旬で苗木の葉芽が開いているが)	・ 広葉樹は葉芽が大切であるので、丁寧に取り扱う 植え穴はやや深めにし苗木の直根は少し切りつめる 植え穴には水を入れてから植える 細根は十分広げて植える
【サクラ】	Q35 サクラの植栽時期と肥料はなにがよいか	・ サクラの苗木は関東など県外から移送されてくる場合が多いので、乾燥防止のため到着後すみやかに植え付けること この時は、できるだけ大きく掘り、植え穴にたっぷり水を入れ、柔らかく練ること 腐葉土を多めに入れる 深植えしないこと 苗木は1～1.5m位ときは、芯止めをする 気温が高くなり、新芽出ている場合は、この新芽を欠かないよう注意すること 肥料はマルモリ11号をバラマキする(1本当たり100～200gが目安)
【育 天】	Q36 育天施業での留意点は	・ 目的を明確に 用材仕立ての時は、有用広葉樹が何割ぐらいあるか見極める 空間には植えるより、刈払い、掻きおこしなど更新補助が有効 (照度の関係) ・ 目標(用材、キノコ原木等)によって仕立て方が異なる 立っている有用樹種によって検討する
	Q37 育天施業はどうすれば短期間で成果を上げられるか	・ 土地が肥沃で、ある程度樹齢が高く、有用樹が多く、利便性がよいことなどがそろっていれば短期間の成果は期待できる ただし、針葉樹よりは、数段時間がかかる 空間への植え込みは、よく育たない
【その他】	Q38 ブナの種子の採取方法は	・ ブナは5年以上に1回しか豊作にならない 林内にネットを張り、落下したものを集める クマの好物なので要注意 種の保存はむずかしいので、採取したらすぐ撒くこと(取り撒き)
	Q39 公園内に肥料を撒くとすれば何の肥料が良いか 広葉樹が主体 土が硬く締まっている状態	・ 丸森11号を紙コップ1杯(200g)を樹木の周囲(枝下)に溝を掘って散布

Q40 花立地区に適した樹種は	・牧草地で表土を剥いているため、土壌や気象条件等で厳しい環境にある 植えるとすれば、針葉樹：トドマツ、エゾマツ、モミ、カラマツ 広葉樹：ホオノキ、ブナ、ミズナラ、コナラ、トチノキ、ケヤキ、ヤブツバキ、イタヤカエデ、シナノキなど
Q41 アジサイにはどんな肥料がよいか	・ホームセンター等で売っている花木用の肥料でよい アジサイは土（肥料）によって色が変わる 酸性土で青色、アルカリ性土で紅色の花が咲く
Q42 間伐を実施して数年経ったら樹幹に脇芽が出てきたが	・不定芽といって、付けておけば枝・節となるので、見つけたらすぐ取り除くように

3【林地の森林保護】

項目	質問内容	コメント
【ナラ枯れ】	Q43 ナラ枯れの話があるようだがどういう症状か 防除法はあるのか	・この虫は在来種で元からあった虫である 被害のある樹種は、コナラ、ミズナラ、カシワ、クリなどのナラ類であるが、ブナはかからない カシノナガクイムシがナラ菌を運び被害が広がる このナラ菌が樹体内で蔓延し、組織を破壊し、通水傷害を起こし枯れるもの 7月に枯れが始まり、9月上旬までに枯死する この虫は一生のうち外にでるのは7～10日であとは材内で生活する このため防除がむずかしい 繁殖部位は90%が地上から1.5m以内で、地下部にも繁殖する 穴の大きさは、つま楊枝が入る程度 防除はドリルで穴を開け、スミチオン1,000倍液を注入する また、マツクイ防除のNC剤が販売されている 早期発見・駆除が大切
【マツクイ虫】	Q44 マツクイ虫は年に何回発生するか	・通常は2年に1回の羽化であるが、気温が高いと1年に1回の羽化 従って、年に1～2回の発生 逆に、本県のような寒冷地では年越し枯れもある 5月から月1回ペースで薬剤散布 後食の時期（7～9月）が注意を要する
	Q45 枯れの特徴は（一般枯れとの相違）	・①マツはヤニが多い樹木であるが、線虫が侵入するとヤニが少なくなる 春から秋の間にナイフで傷をつけても傷口からヤニがでなくなる ②松くい虫被害の場合は、先に古い葉（2～3年目）が、その後新しい葉（当年）が色あせ、一部垂れ下がり、短期間のうちに赤褐色に変色する ・乾燥が原因の場合は新しい葉が先に、また、大気汚染（亜硫酸ガス）が原因の場合は、同時に赤褐色に変わる
	Q46 海岸の被害跡地には何を植えているか	・最前線にはカシワを中心に その後方はクロマツ、コナラ等を混植 300m以上はクロマツと広葉樹の混植
【コウモリガ】	Q47 7～8年生のスギがぼつんぼつんと枯れるが	・コウモリガの幼虫によるもの 根本回りをきれいに除草する ・コウモリガの幼虫による被害 幹の回りを一周されると枯れる 根元回りをきれいにする 木くずのでているところに穴があるので、キンチョールを噴霧
	Q48 3年目のスギ造林地の根元に木くずがでている	
【アカトラ】	Q49 スギノアカネトラカミキリ被害	・この虫は、枯れ枝のみに産卵、同時に腐朽菌を置いていく 幼虫が材の中で移動し、食害被害と腐朽菌を蔓延する 間伐や枝打ちのしていない湿度が高く通風の悪い環境で発生
【その他】	Q50 広葉樹の葉が枯れてきた	・8月の猛暑による水枯れと根元回りの虫が原因 環境整備をし、殺虫剤をまく 一度散水すれば続けないといけない
	Q51 ウサギやネズミの被害は	・ウサギの被害は樹の先端部がカット 忌避剤（ヤシマアンレス） ネズミは、根元から食害、殺鼠剤（リン化亜鉛剤、タリウム） ウサギの被害は、食害点の下でカットして仕立てる 根がしっかりしていれば整枝で大丈夫
	Q52 スギ林の樹皮がカビが生えたように青白くなった原因は	・風通しが悪く湿度が高くジメジメしたところなどに発生する 下草を刈り、除間伐を行うなど風通しを改善する 沢筋等で湿度の淀む所は発生しやすい
	Q53 ヒノキを植えたが 枯れてきている	・現地を見たが、一部、漏脂病にかかっている この木は伐採する 枝が枯れたのは寒風による凍傷と思われる 風上に防風ネットを張ると良い

	Q54 アカマツが枯れるとマツタケも出なくなるか	<ul style="list-style-type: none"> ・マツの根には菌根菌が共生しており、マツタケは、この菌に発生する マツが死ぬと菌根菌も死ぬからキノコは発生しない ・マツタケは富栄養化（落ち葉や雑草など栄養分堆積すること）が進むとそれらに繁殖する菌に負けてしまうため落ち葉等を掻き起し、周辺を乾燥させる作業が必要である
【台風被害】	Q55 台風被害木のその後はどうなるか	<ul style="list-style-type: none"> ・表面上は、一見してわからないが、内部は、もめなどで割れの被害が残っている これらは、なかなか回復できない

4 【居住地の森林保護】

項 目	質 問 内 容	コ メ ン ト
	Q56 庭のマツが赤くなった マツクイ虫被害か	<ul style="list-style-type: none"> ・西側が急に切り開かれたことによる寒風、潮風害 樹勢が弱っているため、スミチオン 500～1,000 倍液を散布
	Q57 庭木のマツが赤くなって枯れる ケムシもついている 病名は	<ul style="list-style-type: none"> ・病名は、赤斑葉枯病、すす葉枯病 毛虫は、マツカレハ MEP（スミチオン乳剤）、DEP（ディプティレックス乳剤）500 倍液を散布 枯損に至ることは少ない
	Q58 体育館脇のマツの下枝が枯れてきた 見てほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・水たまりとなっている 枝の枯れぐあいを見るとマツクイムシではない 排水不良による窒息状態である 幹にアリの巣もある 排水溝を掘って排水に努める 枯れ枝を除去し、アリの巣を駆除する 樹勢が落ちているので予防にスミチオン剤500 倍液を散布する
	Q59 太い枝等を切ったあとの処理	<ul style="list-style-type: none"> ・トップジンMペースト等を塗布
	Q60 イヌツゲに黒いスス状のものがついていて 防除方法は	<ul style="list-style-type: none"> ・スス病とカイガラムシの寄生によるもの スス病菌によって起こるもので、吸汁性害虫であるカイガラムシ類の分泌・排せき物上に繁殖する カイガラムシがはびこった後にスス病が繁殖したもの 防除法：枯損等には至らないので、生育環境を良くしてやるのが大事（薬剤を散布する場合はディプティレックス乳剤等）
	Q61 庭のマツの木に山アリが列を作って上下している	<ul style="list-style-type: none"> ・上の巣から下の巣に卵を移動している 上の穴、下の巣、通り道に薬剤散布（キンチョール等で可） ・アリ・クイムシの絵柄のついたキンチョールを穴に噴霧 幹の回りにも噴霧 ・スミチオン500 倍液を噴霧し、モルタルで密封すればさらに良い
	Q62 庭のモミジからポロポロ木くずがでてくるが	<ul style="list-style-type: none"> ・（ヒラタ）クイムシによるもの 中に入っている虫には、ノズルのついたキンチョールを虫穴に差し込んで噴霧 これを数回繰り返せば防除できる 夏場（7～8月）ごろ発生する
	Q63 加工したモミジの材から細粉化した粉が出るが（住宅を改築 ケヤキの梁から細粉化した粉が出るが）	<ul style="list-style-type: none"> ・夏場に材に入ったクイムシが、冬の暖房で温度が高くなり幼虫が活動したのでないか ・（原因、防除法とも同上）
	Q64 ウメノキが実をつけなかった カイガラムシが原因でないか	<ul style="list-style-type: none"> ・カイガラムシの付着は見られたが実がつかないほどではないと思われる 整枝剪定がなされていないため、徒長枝がいっぱいである また 樹幹にはコケがいたるところに付着している（現地診断の結果） ①いまのうちに整枝剪定を実施し（サクラ切るバカ、ウメ切らぬバカ）、コケをブラシで掻き落とすこと ②3月中に石灰硫黄合剤を散布する ③ふ化幼虫は5月中～6月下旬に見られると思うので、スプラサイドカルホスなどの乳剤（500～1000 倍液）を年2～3回散布する 特に、1回目の5月は重点的に実施することが肝要である
	Q65 シダレ桜の幹にコケがびっしり付いている 取り除く方法は	<ul style="list-style-type: none"> ・タワシで掻き取るのがよい かなり湿度の高い土地と思われるので、樹木の根本の表土を剥ぎ取ること コケの掻き取りは数回行うこと 薬剤散布は他の植物に悪影響を及ぼす恐れがあるので、極力避けること
	Q66 庭木の害虫駆除について	<ul style="list-style-type: none"> ・庭木が混みすぎて害虫が発生している スミチオン1,000 倍液を散布すること 混み合っているところは抜き切りすること

5【特用林産関係】

項目	質問内容	コメント
【キノコ関係】 【シイタケ】 ※「シイタケ原木栽培法」については、組合だより第84号(H23. 6. 30発行)に、また、「ナメコ原木栽培法」については、組合だより第85号(H23. 9. 1発行)に詳しく掲載されています。	Q67 シイタケ原木の伐採時期と植菌時期	・10月以降が適期 枝葉をつけたまま干し、木口にひび割れころ玉切りし植菌 春は、遅くとも梅雨前まで終了 原木は遅くとも4月初旬までは伐採し、1ヶ月以上は乾燥する
	Q68 太い原木の使用目的は	・自然栽培で乾しシイタケをとることを目的 原木が太いと肉厚のものがとれる 細い原木は乾しシイタケには向かない 廃ほだ木や廃培地にはカブトムシが発生する
	Q69 「仮伏せ」と「天地返し」	・「仮伏せ」：種駒の菌糸をすみやかに原木に活着させるため 平均気温が15℃以下の時行う 仮伏せ内は25℃以上にならないように 高さは腰高、期間は、種駒の頭部が白色または原木木口に菌糸紋がでるまで 天地返しは菌糸の伸びを均一にするため上下・裏表に返すこと 夏は行わない ・仮伏せは長すぎると雑菌の温床になるので要注意 東南、東向きの緩傾斜地、日が差し込む程度が良 直射日光、西日は厳禁 ビニールなど風通しの悪いものはさける 本数少ないときは低めに薪積みし、雑木かスギの枝で覆う
	Q70 シイタケの不時栽培の発生操作は	・2年目のホダ木で低温性の品種であること(例 河村式101号) ・①ホダ木の乾燥(抑制)30~40日 ②浸水(ホダ木の状態による)24~72時間 ③水抜き(余分な水分を抜く、寒気にあてて刺激効果を高める) ④芽出し(保温、低温性種菌は10℃で行う)4~5日 ⑤展開(フレーム内の温度を10~15℃で管理(低温性の場合))4~5日 ⑥収穫(7分開き位で収穫)3~4日 ⑦収穫後のホダ木の管理(急激な乾燥は避け、日陰で管理し30~40日休ませてから再使用する)
	Q71 乾しシイタケ用の種駒はどこがよいか	・乾し用は、「菌興」が主流
	Q72 種駒のビンが茶色になったものがきた なぜか	・種駒の菌が完熟している証拠 原木に打ち込むには少し遅い 新しいものと交換してもらうとよい
	Q73 キノコ栽培にについて、管理がむずかしい まだまだ勉強不足	・自分の作業工程をもう一度振り返ってみることが大切と思う 原木の調達から発生まで、特に夏場の管理と発生時の管理ができてあったか 伏せ込み場所により条件がそれぞれ違うので、伏せ込み場所の状態をよく観察しておく必要がある
【ナメコ】	Q74 ナメコを伐根で栽培する方法は	・伐根は表皮の落ちていないもの 目視で雑菌の入っていないもの
	Q75 本伏せの適地	・広葉樹林が望ましい 夏場は風通しが良く スギ林では間伐した日当たりの良いところ 初年度の天地返し、環境整備が大切
	Q76 植菌の時期	・ほだ木は早春に伐採し、木口がひび割れる程度の乾燥(40日前後か) サクラ咲くまで終了 秋は原木準備あれば、11月中は可能 12月に入った場合は、小屋の中に保温し春になってから展開 保温は通気性に注意 ・植菌時期は、春か秋 原木を伐採してすぐ植菌はできないので、2~3週間ぐらいは乾燥させてほしい(シイタケの場合は1ヶ月以上乾燥させる) 木口がひび割れしたときが適期である
	Q77 12月でもナメコを植菌してよいか	・原木を準備しているのであれば、植えても良い ただし、室内で保温するように
	Q78 ナメコ栽培でも天地返しは必要か	・ナメコは特に天地返しは必要ないが、菌の廻りが片寄っているようなときは、行くと良いといわれている 通常は、植菌後すぐ仮伏せを1ヶ月程行い、その後本伏せする この時に状態を見て返してやる
	Q79 ナメコの栽培にケヤキを使えるか	・使えるが、若い木を使うこと 林齢が高くなると心材部が多く、辺材部が少なくなる キノコが栄養としているのは、この辺材部であり、辺材部が多いほどキノコの発生量も多くなる

【その他のキノコ】	Q80 ヒラタケの裏にコブ状のもの（5～7mm）がついているが	・ムシこぶで、中に小さな虫が入っているので食べないように
	Q81 トビタケが握りこぶし大になってから開かない	・湿度が不足しているのではないか キノコに直接かからないようにキリ状に噴霧したらどうか
	Q82 マイタケのブロックを伏せ込んだが1年目は小さいのが出たが、2年目から全く出なかった なぜか	・新しいブロックは3年位は出るようなので、1度使用したものでないか 古い菌は安いですが、発生しにくい
	Q83 マイタケで、1回取った廃菌を植えたが出なかった原因は	・廃菌だとすれば、上下反対にして使用すること その際は、反対側の面のビニールを切り開いて伏せ込む この作業をしないとキノコは出にくい 古い菌床は、どの程度使用したのか確認すること 極力新しい菌を使用すると
	Q84 マンネンタケの菌を販売しているようだが需要はどうか	・菌は種菌メーカーで取り扱っているがキノコの需要は、あまりないのではないかと 漢方では「レイシ」の名前で使われているが、これは薬剤として使われるもので、一般の人は禁止されている

6【特用樹関係】

項目	質問内容	コメント
【特用樹】 【ク リ】	Q85 クリを植えたいが 品種は	・一般的には「筑波」が栽培容易 必ず受粉樹（丹沢・利平等）を数本入れる この3種は塾期が同じ
	Q86 クリの整枝の方法	・幼木期（3年目）：自然にし、邪魔になる枝等軽く剪定 若木期（4～8年）：新梢よく伸び、結実開始 樹冠を拡大し主枝、亜主枝など骨格つくる 成木期（8～20年）：樹形完成、放任すると枝が枯れあがる 混み合っている側枝や古い枝を間引く ・剪定時期は：冬期間でもよいが、遅くなると花芽を取ってしまうことになるので、2月まで終了
	Q87 クリの実が完熟しないで落ちてしまうが	・受粉が完全でなかったか害虫による クリミドリシンクイガ、クリイガアブラムシによる場合が多い 7月中旬～下旬にスミチオン剤を2～3回散布
	Q88 クリの中の実が1粒という品種あるか	・実が1粒というのは聞いたことがない 栽培上1粒というのは非効率的である 樹が若いときは、実が一つということはあるが、ある程度、樹木が成熟すれば3球が普通である
【タラノメ】	Q89 タラノメの栽培は	・春先は温室等の施設が必要 流通面や市場性など念入りな調査が必要 森林技術センターで特用林産物栽培の手引き書を出している
【竹 林】	Q90 竹林の管理は	・竹材をとるのかタケノコをとるのかによって管理が違う タケノコ：親竹をha150～300本残す できるだけ3年生までの若いものとし、老年竹は伐採 肥料は、竹専用ものをバラ巻き 0.1ha当りの施肥量は、全部で20kgで、2～3月に全量の30～40%、タケノコ採取後の6～7月に礼肥として30～40%、残りを9～10月に施肥
	Q91 竹の移植時期は	・雪消えと同時か、秋分過ぎが適 堀取りの際は地下茎のタケノコを欠かないように根が活着したら肥料をやる
	Q92 クロ竹の栽培は可能か	・クロ竹は観賞用に売られており、栽培は可能である 温暖なところでは普通に生えている ただし、活着するとどんどんふえるので対策（根が増えないよう土中にトタン等）を考える必要
	Q93 キウイの植え方について	・キウイは肥沃な土地を好むので、植え穴は大きめに掘って堆肥を十分敷きこむ ツルはどんだんのびるので、2～3芽を残して切りつめる 孫ツルに実をつける 2年生の枝の新梢に花芽がつく 翌年の2月ころが剪定の時期

7【一般事項】

項 目	質 問 内 容	コ メ ン ト
【賦課金の支払い】	Q94 賦課金の支払いについて 農協に払い込みたいが	・農協に口座がある方は農協に振込をお願いしているところ 手続きは簡単 用紙に必要事項を記入して提出する
【所有界等】	Q95 所有界が侵害されて困っている	・何年にもなるようなので、裁判所に所有権確認の調停を依頼したらどうか 写真、証人がいるようなので、弁護士と相談するのもよいのではないか
	Q96 当初4人で共有していたが分割することになり、現地で分割し確認した これに基づき境界杭を打ち分割利用していた 登記はとらなかった 一人の人が自分の持分を売ったことから、買った人が面積に差があり納得できないとのクレームがついた どうしたものか	・売った人はどのように説明して売ったのか また、買った人はどうであったか確認する必要があるのではないか このような事案には、安易な判断はできかねる 弁護士や土地家屋調査士等に相談したらどうか
	Q97 山林を手放したい 女手だけでは管理できない 山の所在も不明だ(課税明細書持参)	・役場にいて、課税明細書に書かれている箇所の図面を貰ったらどうか 相続が開始するので登記名義人の現戸籍を交付してもらい、相続関係図を作り、司法書士に相談したらどうか
	Q98 父親が亡くなったので相続が始まる 誰に相談すればよいか	・相続は亡くなったことを知った日から90日以内に相続することになる 登記名義人と相続人の関係をはっきりさせることが肝要だ 司法書士に相談したらどうか
【その他】	Q99 林地取得資金は今も借りられるか	・貸し付け条件：林業経営改善計画の認定必要 一般的にはむずかしい 本所総務課に相談のこと
	Q100 気候と病害虫の関係はどうか	・梅雨がないときは、気温は高め 気温が高いと虫の発生には好都合 通常2年に1回のふ化のものが、1年でふ化することもある 2倍となる 特にマツクイ虫には要注意
	Q101 苗畑跡地の利用方法は	・表土がなくなっているため、山林にもどすのがよい 混交林か広葉樹林に
	Q102 残土処理をした箇所は植樹可能か	・粘土、砂とかいろんなものが混じっていると思われるので、牧草でも撒いて数年土壌改良に努める
	Q103 挿し木の方法について知りたい	・発泡スチロール箱を活用する方法 35cm×60×25～30くらい 底には水抜き用の穴を数カ所あける 土は鹿沼土小粒 深さ20cmほど敷き詰め、十分灌水しておく 穂木は、水を入れたバケツに入れておく 挿す直前に鋭利な刃物で斜めにカットし、(発根促進処理すると効果大) 即挿し付ける(深さは8～12cm) 根元はしっかり固める 穂木は、日当りの良いところから取ること 挿し付けは無風曇天日が良 風のあたらない半日陰のところで保管
【補助金関係等】	Q104 補助制度関係について	・補助制度については、制度の変更が多いため、例年多くの相談が寄せられている 本所・支所の担当者によく相談のうえ進めるよう指導している
	Q105 いま補助金と言わないで交付金というようだが どう違うのか	・基本的には、補助金は使用目的が指定されているが、交付金は、ある程度県等の配布先に内容を委ねられている点異なる 使用できる種目も交付金の方が柔軟である 一長一短がある
	Q106 森林計画図について	・森林計画図に関する相談も多いが、境界確認等に使用できるものではないことを指導している

7【一般事項】

項目	質問内容	コメント
【コンクール関係】	Q107 造林コンクールに出品したいが どんな手入れをしたらよいか 全体で 0.8ha で林齢はまちまちである	・①林齢はできるだけ区分する ②これまでの作業暦を整理しておく ③今年の作業はきちんと完了させておく ④支所の担当と打合せをしてアドバイスをもらうこと
	Q108 コンクールに出したいと思っているが 現場を見て 手入れのアドバイスがほしい	・現場を見るとまだ雪が残っている（鳥海町4ノ25）スギの根元を見ると雪による幹割れをおこしている まず、この整理と枝打ちの実施が必要だ 整理が終わった時点でさらに検討する
	Q109 コンクールで入賞する林を作りたいが現地指導してほしい	・コンクールの出展には、部門ごとに林齢範囲があるので、該当する山があるときは連絡されたい（幼齢林7～9年生、枝打ち11～30年生、間伐21年生以上、育天25年生以上）
	Q110 コンクールに出品するに当たっての作業はいつ頃がよいか	・例えば今年の出品だとすれば、審査が12月上旬になるので、10月までに作業が終了していること 幼齢林であれば下草を刈り、裾枝を払うなどのことが必要 出品するのは、できれば作業を実施した翌年が好ましい
	Q111 枝打ちに出展したいが 留意点は	・林内を刈払い、枝打ちを行うが個々の樹木にあった高さで打つ 打つときは根元回りから丁寧に 枯れ枝は全部切ること 立木の中で損傷木があるときは伐採除去しておくこと
	Q112 作業実施後すぐにコンクールに出すのはだめか	・施業は種別によって実施時期が異なるので、作業種別によっては実施後すぐ出品となることもある 枝打ちなどは施業後すぐでも良いが、間伐などは翌年出品の方が林分が落ち着くので良いのではないかと いずれにしても、施業の実施内容が大事であり、作業は、ていねいに実施すること

8【トピック情報】

項 目	ト ピ ッ ク 内 容	コ メ ン ト
	<p>◇スギの新月(2月10日)伐採について (秋田県立大学木材高度加工研究所 川井教授) (H21調査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新月伐採とは、オーストリアの伝承で、冬期間の新月の日までの数日間に伐採し、数ヶ月間乾燥することにより、乾燥性が良く、腐りにくい、材質がすぐれた木材が生産できるといわれているもの(近年、オーストリアのチロル地方で製材業を営むエルビン・トーマ氏が提唱) 日本でも各地で試みがされている ・川井教授は、科学的根拠について、1年間、毎月の新月と満月の日に伐採した材の生材と葉枯らし材について、比較検討した結果、本県の試験地では、含水率等において両者に差は認められなかったという結論を出した ・教授は 新月伐採の効果は、葉枯らし効果と考えられるとし、乾燥性が良いというのは、元来冬季の新月は含水率が低いこと、腐りにくいというのは、冬季は貯蔵されているデンプン量が少ないため、カビなどの菌類が繁殖しにくいことなどが考えられると述べている
	<p>◇希少な秋田スギ「アオヤジロ」について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アオヤジロは、天然秋田スギの変異株といわれ、黄色を呈する針葉、特殊な芳香を特徴とし、樽材などの良材を産する本県固有の名木とされているが、学術的な研究報告例はほとんどないのが現状 ・花粉や結実量が少なく、種子の発芽率も低く、繁殖力が弱いといわれている ・県森林技術センターでは、H23年度から特性解明と活用に関する研究に着手した 県内に40本程度あるとされる候補木から穂を採取し、挿し木や実生で保存園を造成し、アオヤジロの品種的特性を解明するとともに、香気、抗菌、抗蟻性(シロアリ等の抵抗性)などについて研究をし、優良個体の系統保存を進める計画としている ・当管内からも数種の候補木がセンターに提供されている
	<p>◇里山をおびやかす伝染性病害について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・H18年度に本県ではじめて、にかほ市で確認されたナラ枯れ被害は、拡大を続け、H22年度には、民・国有林合わせて8市町村に拡大した またH22年度には、これまで未発生であった岩手県、青森県でも新たに被害が確認され、これで被害は東北全県に広がった ・このほか、隣県では、里山広葉樹林を中心に伝染性の病害が発生している 一つは第2のナラ枯れといわれる“カツラマルカイガラムシ”による枯死被害で、ナラ枯れの被害は、コナラ、ミズナラ、カシワ等ブナ科の樹木に限られるのに対し、こちらは、ほぼ全ての落葉広葉樹が枯死してしまう 島根・長野・山梨県などが激害地で、東北では、秋田・青森を除く各県に被害が広がっている “カツラマルカイガラムシ”は葉脈や樹幹より養分を吸引し、徐々に林木を弱らせ4～5年で枯死させる また、H20年度には岩手県でナラ類に被害をもたらす“ナラフサカイガラムシ”も確認されている これらの被害は、葉のしおれから始まり、部分的な枝枯れなどで異常が確認でき、幹には、白い突起のある貝殻が一面に寄生する 2つのカイガラムシ被害は本県では、まだ確認されていない ・このように、地球温暖化や里山の取り扱いをめぐる環境の変化などに伴い、今後も、広葉樹等をおびやかすさまざまな病害の発生が懸念されている
	<p>◇ブナの実の豊凶予測とクマの出没</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブナは結実の豊凶が著しく、豊作の周期が5～7年程度と長い樹種である 近年の本県におけるブナの実の豊作年は、H7、H12、H17と5年周期で推移してきたが、H22年度とH23年度は不作となっている 県森林技術センターでは、ブナの冬芽(花芽、葉芽)のうち、花芽の量から、豊凶を予測する方法を開発し、毎年ホームページで、豊凶予測を発表するとともに(H22、H23も不作と予測)、クマの出没予測に活用されている ・クマの出没は、ドングリやブナの実の豊凶と関連があるといわれており、本県では、特にブナの実の豊凶との関連が高いといわれている また、ブナの実の豊作年には繁殖が多くなるため、これらが成獣となる4年目に多く出没するという調査結果も出ている
	<p>◇H22年度は、夏は猛暑にもかかわらずなぜ天然キノコが豊作であったか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・天然キノコの菌糸は地温が25℃程度で最も活発となる H22年度は、本県でも、9月下旬までこの条件が続いたことと、この時期に適度な雨が合ったことなどが要因といわれている ・特に、全国的にマツタケも豊作であったが、こうした自然条件も要因の一つといわれている ・ただし、天然ナメコについては、気温が10℃を下がらないと芽きりが悪いキノコである